

仕事の

余白

2010年
4月25日



金城 和光

沖縄和僑会代表幹事

ランドへ遊びにきた、多くの中国人が宿泊していたのだ。

ある日、商店街の小さな食堂に入った。無愛想な店員が英語と広東語のメニューを持ってきた。料理がよく分からないので、壁に張っていた料理写真を指さして注文。出てきた料理は超激辛の麺料理だった。いやがらせか？辛さと格闘し完食した。

今後、沖縄にも多くの中国人観光客が訪れるだろう。ホテル、飲食店、小売店では英語、広東語、北京語でのサービス案内や商品説明などが必要となってくる。

日本の得意とする絵文字やイメージ写真など、簡単、安価で有効な紙話（ペーパー・コミュニケーション）の上手な活用法を検討したらいかがでしょうか。

今年の春節（旧正月）、和僑会の会議に

参加するため香港へ出張した。飛行機の出発が遅れ、夜中1時ごろ、香港空港に到着。タクシーは長蛇の列、英語の通じないバスの運転手にホテル名を紙に書いて伝え、やっとの思いでホテルに着いた。

フロントでは無愛想な男が広東語で話しかけてくる。聞き取れない私に、日本語で書かれた紙を見せ「保証金300ドルを前払いしてくれ！」とお金を要求してきた。このホテルはお客を信用していないらしい？

部屋に入ると、隣の部屋から大きな怪しげな声が……。ラブホテル？廊下では子供たちが走り回る。このホテルには春節休暇で香港ディスプレイ

ペーパー・コミュニケーション